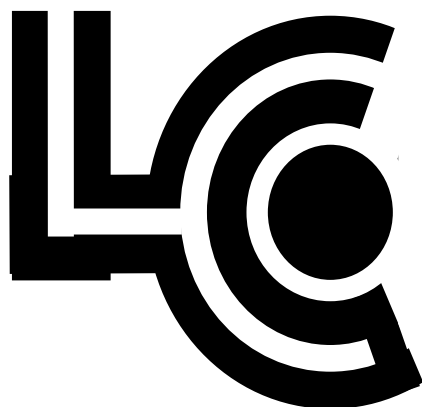


令和5年（2023年）1月11日
第2回 教育研究所 運営に関する懇話会

令和4年度(2022 年度)
成 果 と 課 題



横須賀市教育研究所

担 当	【研修・調査研究担当】－研修－																				
目 標 と 方 針	<p>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る</p> <p>(1) 基本研修において、経験年数に応じた資質・能力及び指導力の向上を図る。</p> <p>(2) 選択研修において、学力の向上に向けた教師の授業力向上、教育課題、学校づくりなど系統的な研修講座を提供する。</p> <p>2 学校組織の活性化と人材育成を図る</p> <p>(1) 各学校において組織的、計画的な人材育成が図れるよう、学校づくり、コミュニケーション能力、集団づくりなど実践的な研修内容を充実させ、校外研修の内容を還元し、校内研修との連動を図る。</p> <p>(2) 各学校において協働性を生かした校内研修・研究が推進されるよう積極的な訪問支援研修を行う。</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る研修</p> <p>喫緊の教育課題に応じた研修、コミュニケーション能力の向上、指導力向上を図る研修などを実施する。</p> <p>2 学校組織の活性化と人材育成を図る研修</p> <p>職に応じた研修や、学校づくり、あるいは訪問支援研修を実施する。</p>																				
成 果	<p>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る研修</p> <p>(1) 基本研修</p> <ul style="list-style-type: none">すべての基本研修において、「授業力」「課題解決力」「人格的資質・情熱」の3つの資質・能力の向上を目的として、ICT活用やインクルーシブ教育、人権教育、セルフマネジメント等、系統的に研修に取り入れた。また、受講者自身が学びを振り返ることができるよう、年間報告書の内容を改善したり、振り返りをデータで自分のメールに届くようにしたりして、受講者が学びのつながりを意識できるようにした。初任者研修では3年ぶりにグループ代表授業を行い、ワークショップ型の研究協議を通して、授業について理解を深めることができた。また、中堅教諭等資質向上研修の一環として中堅教諭も参加し、校外研修で学んだファシリテーションスキルについて実践する場を設けることができた。1年経験者基本研修では、久里浜にある国立特別支援教育総合研究所を見学し、インクルーシブ教育について理解を深めることができた。5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修の授業づくりに関する研修については、外部講師を招聘するとともに、本年度から公開講座として行い、広く市内教員の学ぶ機会とすることができた。指導主事が研究授業を参観し振り返りを行うことで、具体的な授業づくりについて実践的に学ぶ機会を保障することができた。(初任者研修・中堅教諭等資質向上研修) <p>(2) 選択研修について</p> <ul style="list-style-type: none">本年度も新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、臨機応変にオンライン変更等をして、研修の機会を保障することができた。本年度は集合研修も前年度より多く開催することができ、参加者数も前年度より増やすことができた。 <p>★夏季研修受講者数と評価</p> <table><tr><th>年度</th><th>講座数</th><th>参加者数 (延べ人数)</th><th>評価平均</th></tr><tr><td>令和元年度</td><td>75 回</td><td>3642 人</td><td>3.75</td></tr><tr><td>令和2年度</td><td colspan="3">新型コロナウイルス感染症対策のため、中止</td></tr><tr><td>令和3年度</td><td>46 回</td><td>1661 人</td><td>3.67</td></tr><tr><td>令和4年度</td><td>65 回</td><td>2424 人</td><td>3.75</td></tr></table>	年度	講座数	参加者数 (延べ人数)	評価平均	令和元年度	75 回	3642 人	3.75	令和2年度	新型コロナウイルス感染症対策のため、中止			令和3年度	46 回	1661 人	3.67	令和4年度	65 回	2424 人	3.75
年度	講座数	参加者数 (延べ人数)	評価平均																		
令和元年度	75 回	3642 人	3.75																		
令和2年度	新型コロナウイルス感染症対策のため、中止																				
令和3年度	46 回	1661 人	3.67																		
令和4年度	65 回	2424 人	3.75																		

2 学校組織の活性化と人材育成を図る研修

講座名	受講者に校内研修に関わった正規教職員数の割合 ※（ ）は前年度
初任者研修	85.3% (93.4%)
教職1年経験者研修	22.7% (22.2%)
教職2年経験者研修	22.1% (22.5%)
教職5年経験者研修	20.7% (22.2%)
中堅教諭等資質向上研修	21.0% (18.6%)
全体	36.3% (41.1%)

(令和3年度 基本研修報告書より)

- ・基本研修受講者の研修報告書から情報を上表に整理した。成果としては、基本研修におけるペアまたはグループによる校内研修が、コロナ禍においてもOJTを促進するきっかけとなっていることがわかり、特に中堅教諭等資質向上研修では、1年間を通じてOJTを意識して研修を行った成果が、受講者の振り返りからも見られた。
- ・総括教諭を対象とした研修では、学校での職務を鑑み、今年度からすべてオンラインでの研修を計画した。総括教諭3年目が受講する学校運営研修講座では、「オンラインで気持ち的に余裕ができるので集中して受講できる」「他のグループを気にせず、集中してグループ協議をすることができる」といった声があり、研修を通して受講者が学校組織の課題と改善について深く協議することができた。
- ・人権教育担当者研修及び人権指導者養成研修講座を行い、教職員の人権感覚の向上を図ることができた。また、学校からの要請で人権について学校訪問を行い、人権教育の推進につながるよう校内研修を行った。基本研修では、「生命の安全教育」や「性的マイノリティ」など、個別の人権課題を取り上げて、教員の人権課題への意識向上につなげることができた。
- ・サポート研修、校内研究ファシリテート研修等の訪問支援研修の周知を図ることができた。また、実際に依頼のあった小・中学校に定期的に指導主事が訪問し、対象となる教諭の授業力向上に一定の役割を果たすことができた。

課題

- OJTの促進
 - ・上段で示した「受講者に校内研修に関わった正規教職員数の割合」では、全体としての割合が前年度より減っており、特に初任者研修では前年度を約8%下回っている。研修で受講者自身から学ぶ姿勢を意識づけるとともに、基本研修で大切にしているペア・グループ研修について、学校に周知していく必要がある。
- 研修内容の精選、検討
 - ・研修の内容についてこれまでも精選を行ってきたが、喫緊の教育課題は常に変化していく。教育現場の動向を鑑みながら、今後も研修内容の精選、検討を行っていく必要がある。
- 研修受講履歴の活用について
 - ・令和4年の教育公務員特例法の改正により、教員の研修受講履歴の作成が義務付けられた。総合教育センターと連携をしながら、学校での受講奨励につながるよう、活用方法について検討していく。

担 当	【研修・調査研究担当】－理科教育－
目 標 と 方 針	<p>3 理科研修や資料提供を通し、教師の授業力向上及び学習環境づくりに寄与し、理科教育の充実を図る</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>3 理科の学習環境の充実</p> <p>(1) 理科研修</p> <p>理科教育研修講座（教員対象の理科関係研修講座 年間9回）</p> <p>(2) 児童生徒の学習意欲を向上させる観察・実験のための理科室整備</p> <p>① 実験観察教材・情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物教材の維持管理（微小生物、メダカ等）を行う。 ・生物教材の斡旋、提供（ジャガイモ、サツマイモ、カイコ、堆肥等）を行う。 ・実験教材の研究開発、情報提供、理科教材（常設）の展示を行う。 ・理科実験室、理科機器（教具）の貸し出しを行う。 ・実験観察に関する情報提供・協力を行う。 <p>② 教育情報センターホームページ内の理科関係データ更新・追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネット 「理科なび」 ・インターネット 「三浦半島の植物」「三浦半島の地層・地質」「三浦半島の野鳥」 <p>③ 「薬品管理マニュアル」（令和2年3月改訂）の周知と活用を進める。</p> <p>④ 「学校が保管する薬品の管理状況の点検および報告」の実施</p> <p>(3) 教員の指導力および児童生徒の学力向上を図る事業の実施</p> <p>① サイエンスサマーの実施</p> <p>② 土曜科学教室の実施</p>
成 果	<p>(1) 理科研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、予定どおり理科基礎技術研修講座6回と科学教養講座1回を実施した。実践を踏まえた内容の研修を中心に行い、受講者の報告書からは、「理科の観察は、子どもたちにとって大切な活動であると感じます。この研修を生かして、理科、生活科、道徳、総合的な学習の時間など様々な授業や子どもたちとの関わりで活用していきたいと思います。」「国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の講演を聞いて、マイクロプラスチックや環境の問題、SDGsなどの学習に生かしていきたいです。」など理科教育に対する前向きな記述が多く見られた。 ・小学校・中学校理科教材研究講座を2回実施した。理科教材をどのように授業で活用していくとよいか実演を交えながら研修を行った。受講者の報告書からは、「実験を伴う学習に対して、様々な器具を使用するので、それらの活用するための知識を得ることができました。」「子どもたちの興味を引き出す教材・教具の活用や提示の仕方を学びました。」など、授業づくりに対する前向きな記述が多く見られた。 <p>(2) 児童生徒の学習意欲を向上させる観察・実験のための理科室整備</p> <p>① 実験観察教材・情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモ、サツマイモ、カイコ卵を、市立学校に斡旋した。 ・例年、中学校でニーズがあるオオカナダモについて、室内での栽培を行い、希望する学校に提供できる体制を維持している。今年度、メダカと共に5校に配布した。 ・ホウセンカなど、研究所の花壇を活用して栽培した植物教材を、より多く提供できる体制を整

	<p>えている。今年度、種と苗をのべ33校に配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立総合教育センターの協力のもと、4月に希望の多い水中の微小生物を中学校に提供し、各学校の授業で顕微鏡による観察が行われた。また、人工気象器を用いて維持管理し、小学校からの5～9月の提供依頼に対応することができた。ミジンコについては室内での飼育を行い、年間を通して提供できる体制を整えている。 <p>② 教育情報センターホームページ内の理科関係データ更新・追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネット「理科なび」の充実を図り、写真資料や実践資料等を中心とした情報発信を行った。 <p>③ 「薬品管理マニュアル」（令和2年3月改訂）の周知と活用を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月改訂の周知と活用のために、初任者研修や理科基礎技術研修講座の内容の一部に取り上げた。 <p>④ 「学校が保管する薬品の管理状況の点検および報告」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校を訪問し、理科室・理科準備室の状況について確認し指導・助言を行った。 <p>(3) 教員の指導力および児童生徒の学力向上を図る事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、パワーアップ研修講座第1・2回目を子ども向けイベントのサイエンスサマーとあわせて実施した。受講者の総数は19名であった。講師を小学校理科研究会に依頼し、コア・サイエンス・ティーチャー（以下「CST」）を含む7名が行った。受講者の報告書からは、「理科の実験の流れや自由研究の進め方について、本市教員の実践から学ぶことができました。」「授業づくりをする上での発問の仕方やアドバイスの仕方が参考になりました。」など、指導技術向上に関する記述が多くみられた。 ・サイエンスサマーを行い、午前と午後に20名ずつ、計40名の児童が参加した。CSTの指導のもと、5つの理科ブースに分かれ充実した学習支援を行った。 ・児童・生徒研究集録への出品を募り、55点の出品があった。 ・土曜科学教室を年間8回計画した。これまでに6回を行い（残り2回は1月21日、3月11日）、そのうち1回は中学生を対象に今年度初めて実施した。参加者を見ると、繰り返し参加する子どももあり、アンケート用紙から、実験を通してさらに理科に興味を持つ様子がうかがえた。
課題	<p>1 授業支援・学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、理科の授業を行った経験が少ない教員や非常勤講師等が理科の授業を担当するケースがある。安心して理科授業や実験・観察に取り組めるよう、すぐに授業で活かせる内容など研修のニーズを絶えず探りながら研修を企画・運営していく。また、小中学校の理科研究会と連携を図り、わかる喜びが実感できる「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の充実につなげる。 <p>2 学校における薬品管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の理科室環境について学校訪問を行うと、適切に薬品が管理されていない学校もいくつか見受けられた。今後も、薬品管理を含む理科室環境の整備について、薬品の適切な管理を促すとともに、その方法についても研修や担当者会を通じて丁寧に周知していく必要がある。また、必要以上に薬品を保管しないことや計画的に購入するように促すとともに、次年度の担当者へ確実な引継ぎをすること、不要薬品は回収事業で廃棄するように促すことを周知していく。

担当	【研修・調査研究担当】一調査研究及び資料・情報提供一
目標と方針	<p>4 教育に関する専門的及び技術的事項の調査・研究を推進し、その成果を還元する</p> <p>(1) 長期研究員による研究</p> <p>(2) 教育研究所連盟への参加</p> <p>(3) 横浜国立大学教育学部附属教育デザインセンター及び横浜国立大学教職大学院との連携</p> <p>5 市内外の教育に関する研究や資料、研修図書等を収集し、発信する</p> <p>(1) 授業づくりのために役立つ指導案や教材教具などの収集・発信</p> <p>(2) 教育研究所図書資料室の機能の充実</p> <p>(3) 教育情報センターの充実（教育情報の蓄積、共有化）</p>
成果	<p>4 市内及び他機関との連携による研究及び資料収集</p> <p>(1) 長期研究員による研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期研究員として、鶴久保小の山田雄太教諭が「子どもの学習改善につながる授業～自己の状況把握を充実させた算数科における個人思考を通して～」を研究テーマとし、鶴久保小学校4年生を対象に実態調査、検証授業、事後アンケートを行った。本年度は、アドバイザーとして、横浜国立大学 石塚 等教授にご助言をいただき研究を進めている。令和4年度研究成果発表会は、令和5年2月22日（水）を予定している。 <p>(2) 教育研究所連盟</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県教育研究所連盟教育研究発表大会において、研究成果の要旨報告書による発信を行った。「1人1台端末の活用による情報活用能力の育成～「問題解決・探究における情報を活用する力」に焦点をあてて～」(提案者：令和3年度年度長期研究員 板越 秀介教諭) ・全国教育研究所連盟及び関東地区教育研究所連盟の各発表大会に出席し、国、他県、他市町村の資料を収集し、当研究所の運営や調査研究の参考にした。 <p>(3) 横浜国立大学教育学部附属教育デザインセンター及び横浜国立大学教職大学院との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期研究員講習会など教職大学院主催の講習会等に参加できる体制を整えるなど、連携を進めた。 ・神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市教育委員会と横浜国立大学教育学部との連携協議会に参加し、各自治体からの情報収集に努めた。 ・横浜国立大学教職大学院非常勤講師として、教職員大学院生を対象に授業を行った。 <p>5 教育に関する資料・情報の収集・発信（令和4年12月1日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度前期分として、46冊の図書を購入し、累計として蔵書は26,936点、教育ビデオは195点、DVDは108点になった。また、保管している市内各学校や各地の研究機関・大学・学校・出版社等から寄贈された紀要及び研究発表資料は350点増え、26,293点になった。 ・本年度、図書の貸出は147点、DVDの貸出は10点、資料の貸出は1件、問い合わせ・相談等は16件であった。 ・横須賀市の戦後の「教育史」の編纂に向けて、原稿の編集に取り組むとともに、教育史編纂プロジェクトチーム会議を運営し、追加原稿の執筆・編集作業を進めた。4年度中の発信に向けて最終調整中である。 ・新規購入図書が、よりわかりやすいようにイントラ図書資料室のページを工夫した。また、新規購入図書の一部を所内フロアに展示し、利用促進に努めた。 ・教科書展示会は受付では、基本的な感染予防策を実施し、閲覧席は距離をおいて向かい合わせにならないように工夫した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の長期研究員の成果について、各学校に理解していただけるように報告会を充実すること。 ・他自治体や他課との連携をよりいっそう深めた調査研究を進めていくこと。 ・全国教育研究所連盟参加をはじめ他機関との連携を図り、先進的な研究を収集していくこと。 ・様々な研究の成果や手引き、教職員のニーズに応じた授業に役立つ資料などを引き続き発信する、また発信方法を検討すること。 ・教育情報センターとして、学習指導案など様々な教育コンテンツの収集、作成、発信をしていくこと。 ・戦後の「教育史」の追加修正を行いながら、第VI期の編纂に向けて、資料の収集・整理に努めること。

担当	【管理運営係】
目標と方針	<p>【目標と方針】</p> <p>1 教育研究所業務の円滑な事務事業・連絡に努める</p> <p>(1) 適正で確実な予算執行に努める。</p> <p>(2) 所内各担当及び関係各課との円滑な連絡調整に努め、的確な情報収集・伝達・作業依頼及び集約等を行う。</p> <p>(3) 法令遵守及び的確な事務処理方法について率先して取り組み、効率的に業務を進める。</p> <p>2 施設の円滑な管理・運営に努める</p> <p>(1) 所内外の環境整備に努め、安心・安全な施設管理を行う。</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 所内の円滑な事務事業及び予算執行調整・連絡</p> <p>(1) 教育研究所全体の予算執行の的確な管理を行う。</p> <p>(2) 教育委員会定例会及び市議会に関する情報収集・伝達・作業依頼及び集約等を行う。</p> <p>(3) 関係各課との円滑な連絡調整を図り、各種報告、連絡、書類作成及び発信事務の遅滞なき履行を図る。</p> <p>(4) 事務及び財務等に関する規程を周知し、業務全般のコンプライアンスについて徹底を図り、効率的な事務処理を率先して行う。</p> <p>2 施設の円滑な管理・運営</p> <p>(1) 所内外全般の環境整備及び美観維持に努める。</p> <p>(2) 施設の工事及び修繕を円滑に行うため、所内外における連絡調整を綿密に行う。</p> <p>(3) 研修用備品等の更新を行う。また、棚卸を行い不要な物品を適正に処分する。</p>
成果	<p>1 所内の円滑な事務事業及び予算執行調整・連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会及び市議会に関する情報収集・伝達・作業について、所内各担当及び関係各課との円滑な連絡調整を実施した。 ・各種報告、連絡、書類作成及び発信事務について、所内への依頼及び取りまとめをすることで、遅滞なく履行ができた。 <p>2 施設の円滑な管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4～5年度の継続事業として計画していた「空調設備・照明設備の改修工事」は、入札を行い、施工業者を決定した。今後1～6月にかけて工事を実施。また、「非常用発電機の均等充電装置交換」、「外灯照明LED交換」を行った。 ・今年度、非常用発電機が老朽化のため故障し修理不能となった。停電時の消防用設備稼働のための非常用電源となっているため、早急に更新工事を実施できるよう関係各所と調整した。 ・自家発電設備、電気設備、消火設備、空調設備等の点検、修繕及び整備を行い、安心・安全な業務環境の維持推進に努めた。
課題	<p>○ 教育研究所内の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築後38年が経過し、建物や機器類の破損や不具合が多発している。財政状況が厳しい中、施設利用者の安全や利用環境を確保するために、修繕個所の優先順位を付けて、財政当局等にその必要性を理解してもらい、予算を獲得していく必要がある。

担当	【教育情報担当課 ICT 活用推進担当】
目標と方針	<p>1 学校における「教育の情報化」を推進する</p> <p>(1) GIGA スクール構想の実現に向けた取組を進める</p> <p>(2) 1人1台端末の活用を推進する</p> <p>(3) 指導場面における「教育の情報化」につながる研修を充実する</p> <p>(4) 校務処理場面における「教育の情報化」につながる研修を充実する</p> <p>(5) オンライン学習に関する内容の検討</p>
成果	<p>(1) GIGA スクール構想の実現に向けた取組</p> <p>(2) 1人1台端末活用の推進</p> <p> ア 各年次に応じた1人1台端末活用を踏まえた研修の実施</p> <p> ・初任者研修 ・1年経験者研修 ・2年経験者研修 ・5年経験者研修</p> <p> ・中堅教諭等資質向上研修 ・よこすか教師塾</p> <p> イ 夏季研修講座・放課後の時間を利用した研修会の実施</p> <p>(ア) 8月3日(水) 小学校におけるプログラミング教育 川崎市立小杉小学校 教諭 佐藤 譲 様</p> <p>(イ) 8月23日(火) 学校実践報告会 坂本中学校・城北小学校</p> <p>(ウ) 8月24日(水) ミライシート活用 ベネッセコーポレーション 風岡 様</p> <p>(エ) 8月25日(木) 著作権に関すること 横浜国立大学 教授 山本 光 様</p> <p> ウ 様々な職種に応じた研修会の実施</p> <p> ・事務職員を対象とした研修 ・図書館司書を対象とした研修 ・小学校教頭会研修</p> <p> ・特別支援学級担任を対象とした研修 ・栄養職員を対象とした研修</p> <p> エ ICT 支援員との報告会を通じた各学校の実態把握</p> <p> オ 他課の事業への協力</p> <p>(3) 指導場面における「教育の情報化」につながる研修の充実</p> <p> ア プログラミング教育(理科)に係る研修・動画を利用したオンデマンド型研修</p> <p> イ 情報セキュリティの保持に関する取組</p> <p> ・情報セキュリティ月間において、情報セキュリティに関する資料を作成し、教職員の啓発の取組を行った。(年間3回)</p> <p>(4) 校務処理場面における「教育の情報化」につながる研修の充実</p> <p> ア 研修会の実施</p> <p> (ア) 新任教頭研修講座(4月14日)</p> <p> 対象 新任教頭</p> <p> 内容 年度初めの校務支援システムの操作に関すること</p> <p> (イ) 校務情報化研修(7月8日、7月13日、7月15日) オンラインでの実施</p> <p> 対象 総括教諭、教諭</p> <p> 内容 前期通信簿入力に関すること</p> <p> (ウ) 健康診断票作成研修(各学校の希望日 全26校) 訪問研修</p> <p> 対象 総括教諭、教諭、総括養護教諭、養護教諭</p> <p> 内容 健康診断票の入力に関すること</p>

	<p>(エ) 進路事務担当者連絡会（10月21日） 対象 入試事務担当 内容 調査書の作成・印刷方法について</p> <p>(オ) 校務情報化研修（2月14日、2月17日、2月24日） 対象 教頭、総括教諭、教諭 内容 学年末通信簿入力に関すること・要録の入力に関すること</p> <p>イ 校務支援システム運用に関すること 校務支援システムに関する資料の作成・イントラ資料の更新</p> <p>ウ 通信簿作成に関する取組 横須賀市内小学校・中学校の通信簿を管理し、各学校からの依頼を受け通信簿の作成・修正</p> <p>エ 調査書作成に関する取組 ・令和4年度の調査書に対応するため、令和4年度用の調査書の作成・修正</p> <p>(5) 学校情報化推進部会の開催 ・教育の情報化を進めるための検討組織として、学校情報化推進部会の各分科会を開催</p> <p>第1分科会（R4年度は、5回開催） 学籍名簿、各種帳票管理に関する仕様及び運用に関すること 校務支援システム全般に関する仕様及び運用に関すること 校務支援システムの更改に関すること 校務用PCの仕様及び運用に関すること 学校HPに関すること</p> <p>第2分科会（R4年度は、5回開催） 成績・時数処理に関する仕様及び運用に関すること 校務用PCの仕様及び運用に関すること 校務支援システムの更改に関すること 学校HPに関すること</p> <p>第3分科会（R4年度は、3回開催） 保健機能の仕様及び運用に関すること 健康診断票について 健康診断票訪問研修について</p> <p>第4分科会…休会中</p> <p>第5分科会（R4年度は、3回開催） 授業におけるICT活用や情報教育の推進に関すること GIGAスクール構想に関すること</p> <p>(6) オンライン学習に関する内容の検討 ・教育指導課・支援教育課と連携をしたオンライン授業などの取組の検討</p>
--	---

課題	<p>1 教育の情報化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に対応した学校における ICT 環境の在り方を検討すること（学習 e ポータル・データの利活用等、デジタル教科書の運用 など） <p>2 1 人 1 台端末の充実と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用実態調査や各種調査を利用した各学校の実態把握 ・国の動向、社会の変化に応じた各学校への情報提供
----	---

担当	【教育情報担当課 ICT 環境整備担当】
目標と方針	<p>【目標と方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校情報基盤を保守管理し、学校における教育の情報化を推進する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) よこすか教育ネットワーク（YKNet）環境の保守管理。 (2) 各学校に配備している ICT 機器の保守管理。 (3) 校務用利用者 ID、パスワードの管理。 2 横須賀市教育情報センターホームページ等を保守管理し、教育委員会内外への情報発信を推進する。 3 GIGA スクールを推進する。 <p>【具体的な活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校情報基盤の保守管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) よこすか教育ネットワーク環境の稼働を維持するため、サーバ類の更改、保守管理を行う。 (2) 教育用パソコン、校務用パソコン等の調達業務と保守管理を行う。 (3) 校務支援システム関係 <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム事業者と調整し、契約事務を行う。 ・教職員・児童生徒の情報を登録し、名簿管理を支援する。 2 横須賀市教育情報センターホームページ等の保守管理 <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市教育情報センター及び教育委員会ホームページの保守管理 ・「よこすかスクールネット（市立学校のホームページ集）」の保守管理 3 1人1台端末が安定して活用できる環境の保守管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 端末、管理サーバ等の保守管理を行う。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校情報基盤の保守管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) よこすか教育ネットワーク環境の稼働を維持するため、サーバ類の更改、保守管理を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の Windows ユーザーメンテナンス等 ・ネットワークの増強 ・中学校職員室サーバの更改及び旧小学校 PC 教室サーバの職員室サーバへの転用 (2) 教育用パソコン、校務用パソコン等の調達業務と保守管理を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・旧小学校 PC 教室パソコンの校務用パソコンへの転用 (3) 校務支援システム関係の保守管理を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童生徒の校務支援システムへの登録 ・各サーバの障害対応 2 横須賀市教育情報センターホームページ等の保守管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) イントラ掲載情報の更新を随時行った。 (2) 年度当初に学校ホームページの掲載内容や更新サイクルに関して不適切なものがないかチェックを行った。 3 1人1台端末が安定して活用できる環境の保守管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 端末、管理サーバ等の保守管理を行った。

課題	<p>1 GIGA スクール推進計画に基づく機器及びネットワーク整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の1人1台端末の活用推進に伴い、限られた予算の中で、費用対効果を勘案しながら、機器種別と機種選定、及び次期ネットワークの整備検討を進めていく必要がある。 <p>2 PCの定期的な動作確認の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に起動されない、または再起動の行われないPCが散見される。このような不適切な取り扱いに起因する修理が多くなっているため、ICT活用推進担当と連携してPCの起動確認、取扱いの周知を徹底していく必要がある。 <p>3 PC・プロジェクタ等の所在確認の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、校務系・教育系のPC・プロジェクタ等の所在確認を行っているが、速やかに所在を確認できない状況が続いているため、ICT活用推進担当と連携して管理方法等の周知を徹底していく必要がある。
----	---